

# 若手研究者にのしかかる重圧

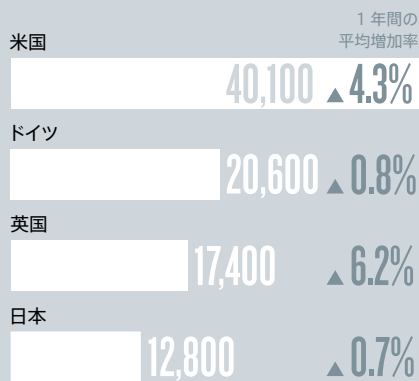
今日の若手研究者は、上の世代より少ない助成金とポストをめくり、厳しい戦いをくぐり抜けていかねばならない。

Under Pressure | Vol. 538 (444-445) | 2016.10.27  
Brendan Maher & Miquel Sureda Anfrés

テニュアトラックのポストをめぐる競争は激しく、駆け出しの研究者の一部は助成金獲得競争でも不利な立場に置かれている。つまり、多くの若手研究者は、助成金申請のための準備や書類作成をしても、その多大な労力に見合うものを得られていないのだ。重圧を背負っているのは皆同じだが、駆け出しの研究者は特に苦しく感じているようだ。世界中の科学者や政策立案者はこの状況を憂慮している。  
(翻訳：三枝小夜子)

## Ph.D 所有者は増加、ポストの数は横ばい

理学・工学分野の博士号の取得者は世界中で増加している。主な経済協力開発機構 (OECD) 加盟国での博士号 (科学関連分野) 取得者数と前年比は次のとおり。



1.6%

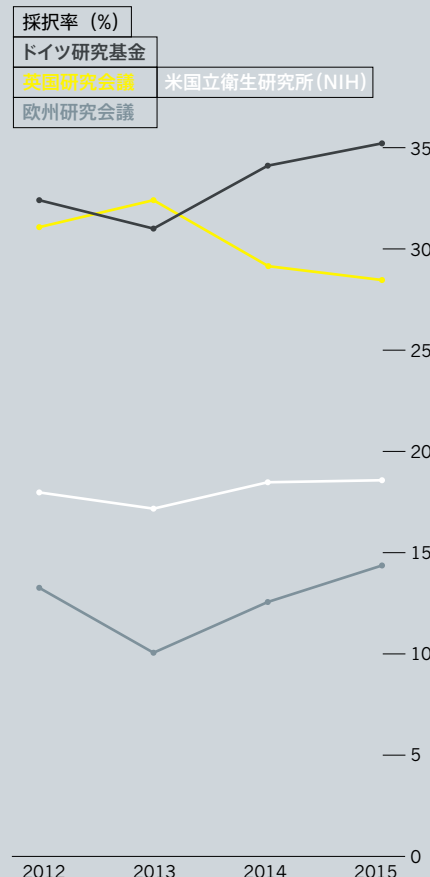
OECD 諸国で何らかの分野の博士号を取得した若者の割合。20年弱で0.8%から倍増。

3,000

米国の大学で1年間に新設される常勤ポスト数。ほとんどの国では、Ph.D 所有者の増加ペースに学術研究機関のポストの増加ペースが追いついていない。

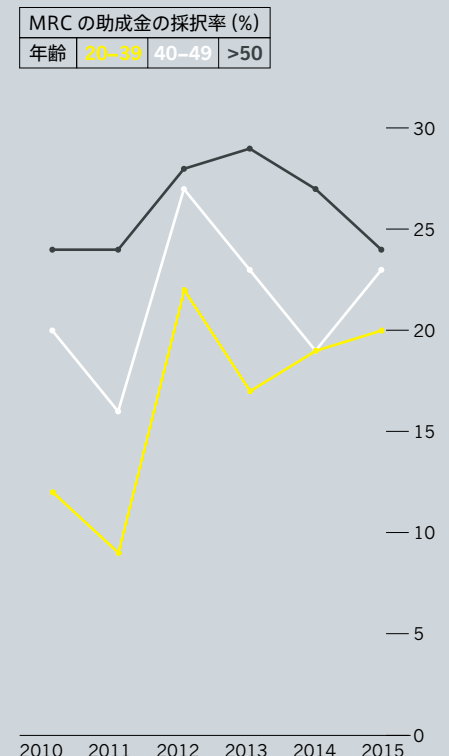
## 増えない助成金

多くの国で、政府による研究助成金は横ばいか減少。主要な助成金提供機関のいくつかでは採択率が20%を下回る。



## 激しい競争

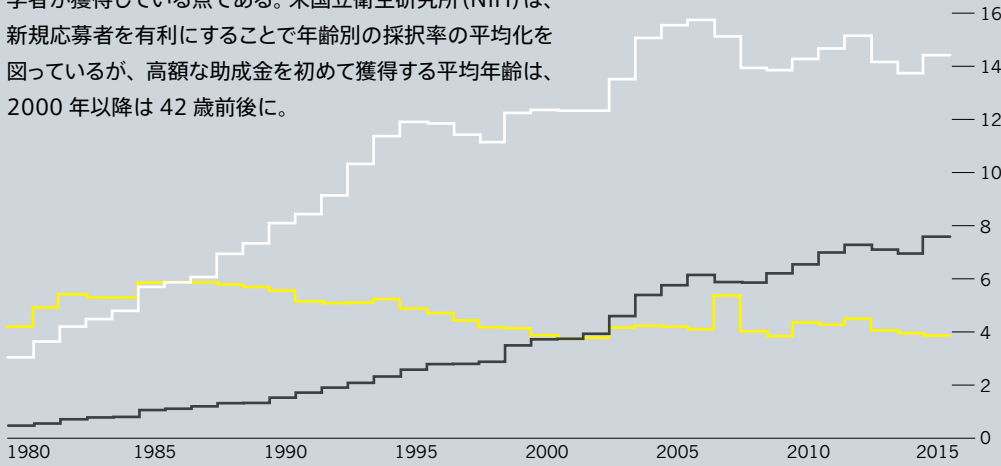
年長の研究者は助成金システムに精通し、学術資源や管理資源、論文発表数も多い。駆け出しの科学者たちは彼らを相手に苦戦を強いられている。英国医学研究会議 (MRC; 英国研究会議の一部) の助成金採択率を見ると若手科学者が最も低い。



## 科学者の高齢化

30年前との大きな違いは、助成金のほとんどを熟年の科学者が獲得している点である。米国立衛生研究所(NIH)は、新規応募者を有利にすることで年齢別の採択率の平均化を図っているが、高額な助成金を初めて獲得する平均年齢は、2000年以降は42歳前後に。

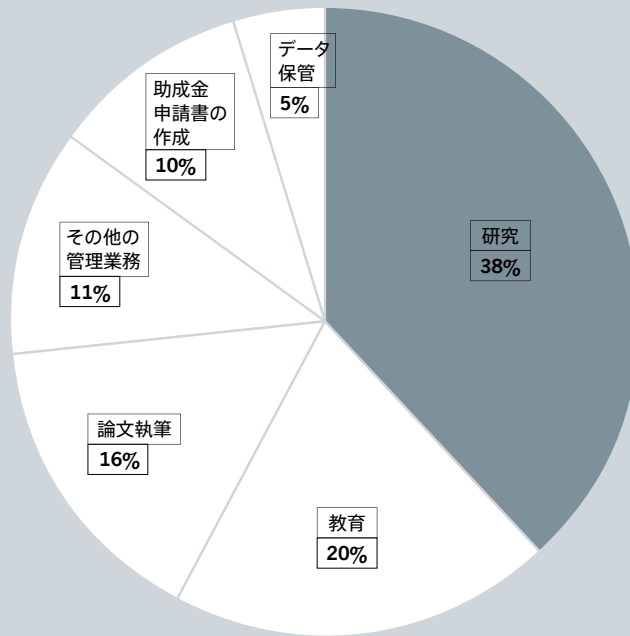
年齢	24-40	41-55	56-70
----	-------	-------	-------



## 研究する暇がない

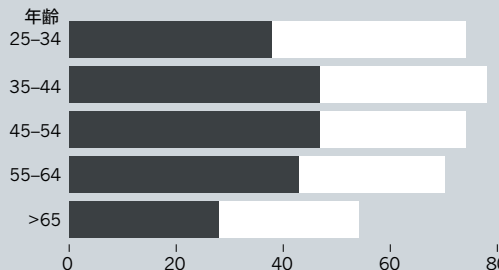
助成金採択率の低さゆえ、研究者たちは助成金申請に多くの時間を費やさざるを得ない。Natureの2016年調査によると、学術機関の研究者が実際に研究に従事できるのは、全年代を通して仕事時間全体の約40%。

65歳以上の群を除く全年齢群で回答者の60%以上が「この5年間に管理業務が増えた」と感じている。中でもキャリア中期の回答者は、その割合が高かった。彼らの研究時間の割合も平均より低かった。

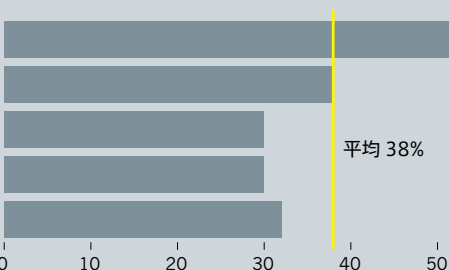


管理業務に費やす時間(回答者に占める割合、%)

かなり増えた やや増えた



研究に費やす時間の平均(仕事時間全体に占める割合、%)



## ストレスはあるが満足

若手研究者を取り巻く状況は厳しいが、60%以上が自分のキャリアに「満足」もしくは「非常に満足」と答えた。満足度が最も高いのは高齢の科学者。

非常に満足 満足  
どちらとも言えない 不満  
非常に不満

